

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年9月4日

氏名	松井 智啓
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2016年8月15日(月)～20日(土)
大学名 学年	京都府立医科大学 5年

今回1年前から夢見ていたこの研修に参加することができ、この1週間は夢のようでした。これまで学外の実習や勉強会に参加したことがない私にとってこの研修に参加して1番の収穫だったのは、私たちの夢を後押ししてくれる先生方、同じ志を持つ多くの医学生と出会うことができたということです。留学に関わって下さった先生方の期待に応えられるよう、また出会った仲間たちに負けないように今後より一層勉学に励み、また今回のメンバー間で切磋琢磨し、日本の医療を益々盛り上げて行きたいと思っています。今回奨学金を用意して下さいました先生方、日米医学医療交流財団の方に厚く御礼申し上げます。

かつての私と同様に、選考に応募する前の方や、研修に出発する前の方も私たちの研修報告書を読んでいることも多いと思いますので、そういった方の参考になるような内容も含めつつ記録していこうと思います。

私はこれまで海外経験なし、TOEFLのみの英会話経験でしたが、1年程前から医学英語に触れており、多少の医学英単語は知っている状態で渡米しました。周りの英語のレベルは、今年に関しては帰国子女などで流暢に話す学生が24人中4~5人でした。英語に関して日本トップレベルの猛者たちが集うわけではありませんし、必ずしも参加する時点で英語が完璧である必要はないと思いますので、これから自分の英語を試したいと思う方々も思い切って応募すればよいと思います。

ハワイの方々是我々にわかりやすいように話してくれましたので、先生方が仰ることの7~8割は理解することができましたが、試験英語にはないスラングや、ご老人の話す英語はわかりにくいことが多かったです。伝える場面では自分が持っている表現・単語を駆使することである程度は可能ですが、人の言っていることを聞き取ることが出来なければそれ以上コミュニケーションになりませんので、リスニングの重要性を痛感しました。

この研修の目玉の一つが University of Hawaii medical school での問診・プレゼン練習で、ここで必要になるのが医学英単語です。今回の研修では新たな英単語を教わる機会はなく、今持っている英語力で乗り切る力が試されます。したがって、ある程度基本的な医学英単語をこしらえていくことをお勧めします。個人的には痛みの性状を表す形容詞が全く不足し、神経系疾患の Case Presentation で苦労しました。

先述の問診・プレゼン練習と同等に有り難かったのが、現地の日本人医師による講演でした。このような重要なレクチャーは日本語で話して下さるので、自分としては安心して聞くことができました。私はあまり米国でレジデントをされていた先生のお話を聞く機会がありませんし、また今働かれています方のお話ということで最新情報を得ることができました。そのお話を聞く中で医学教育学に対する興味が湧き、これまで停滞しがちであった USMLE 対策へのモチベーションになりました。

この研修ではスキマ時間にレクリエーションも用意されており、仲間とともにつかの間の観光もすることができました。やはりハワイは常夏の楽園で、実習中にもどかしい気持ちになることもありましたが、1週間という短い期間で様々なことを経験することができ、とても有意義な夏休みとなりました。来年度以降も今回のような素晴らしい研修となることを願っています。

追伸：夏のハワイは異常なほど空調が効いているので、来年度以降この研修に参加される方は長袖の上着を持っていくことを強くお勧めします！